



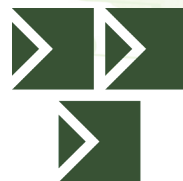
市制施行70周年記念誌 航空写真集



目 次

○市の紹介	1
○市長あいさつ	2
○議長・教育長あいさつ	3
○市のあゆみ	4
○習志野市今昔物語	6
○市立小・中・高等学校紹介	13

習志野市の市章



習志野市の市章は公募により第1位に入選した竹村熊治郎氏の図案（習の字をデザイン化）を採用し、昭和30年8月1日に制定しました。

市制施行 70 周年キャッチフレーズ

これまで先人たちが築き上げてきた習志野市の歴史や魅力を未来へつなげていくために、「音楽のまち習志野」らしく、多くの人で音楽を演奏^{かなで}するオーケストラのように、一致団結して70周年を盛り上げていくことを表現しました。

かなで
演奏よう未来へ 70th



 習志野市

市制施行 70 周年ロゴマーク

市の木「アカシア」と市の花「アジサイ」を、色彩豊かに表現しています。また、「7」の文字は音符を基にしたデザインで、音楽のまち習志野らしいロゴマークとなっています。

（作成者 習志野市在住 和佐典子氏）

70 周年記念マンホール

市制施行 70 周年を記念した特別デザインのマンホールを市内に設置。同じデザインのマンホールカードも発行します。



▲
70 周年記念事業
についてはこちら

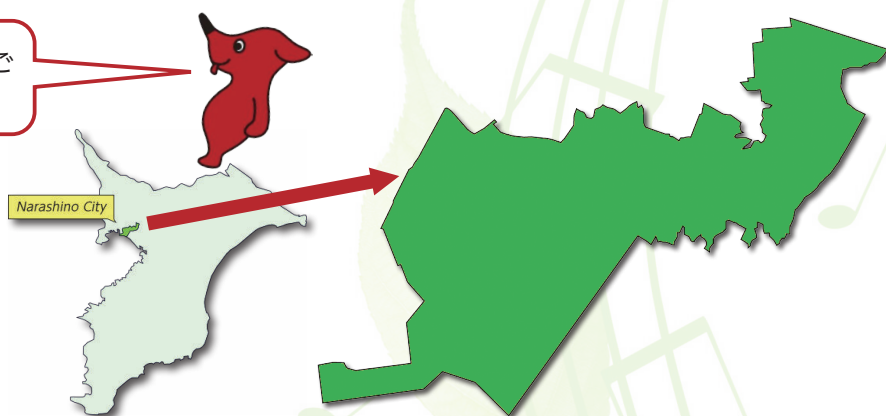
市の紹介

市の誕生

明治6年4月、現在の習志野市・八千代市・船橋市の一部を含む広大な「大和田原」で陸軍の大演習が行われました。この際、演習を総監した明治天皇は後日この地を「習志野原」と命名され、陸軍演習場となりました。その後、昭和10年代に周辺一帯で今より7倍大きな面積で大都市への昇格を図りましたが第2次世界大戦に突入。終戦以降地方再編が進む中再び市制施行に取り組み、昭和29年、面積は当時の県内最小だった「習志野市」が誕生しました。

位置

チーバ君の下あごのあたりだよ



人口・面積

	市制施行時 (昭和29年8月1日)	現在 (令和6年8月1日)
総人口	30,204人	175,301人
面積	17.66km ²	20.97km ²

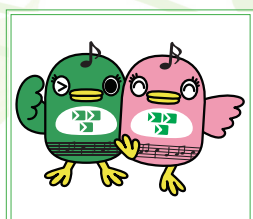
市の木・市の花 昭和45(1970)年に、市の木を「アカシア」、市の花を「アジサイ」と決めました。



市の木 アカシア



市の花 アジサイ



ナラシド♪とその友だち ソラシノ♪

ナラシド♪の誕生日は市が発足した8月1日。性別は不明(本人も分かっていない)。恥ずかしがり屋だけど好奇心旺盛!好きなことは音楽を聴くこと♪とスポーツを見ること♪
今年、ナラシド♪の友だちソラシノ♪も飛来しました!

かなで “演奏よう 未来へ 70th”



習志野市長 宮本 泰介

本市は昭和 29 年 8 月 1 日の市制施行により誕生し、本年、70 周年を迎えました。

この間、時代は昭和から平成・令和へと移り変わり、かつて軍都として名を馳せたまちは、文化の薫り溢れる文教住宅都市へと姿を変え、小さい市域面積ながらも都市と自然が調和したまちとして発展を続けてまいりました。

本市の発展にご尽力されましたすべての先人たちと市政にご支援いただきました皆様に心から敬意と感謝を申し上げます。

70 周年のキャッチフレーズ「かなで 演奏よう 未来へ 70th」には「先人たちから受け継いだ本市の魅力や豊かさをオーケストラのような調和と響きで未来につないでいこう」という思いが込められています。

既に、広大な土地を有する鷺沼地区の特定土地区画整理組合による、市役所前から幕張本郷駅南側に繋がる道路延伸を含む一大プロジェクトや、本市の芸術・文化活動の拠点でもある習志野文化ホール再建設を含む JR 津田沼駅周辺地域の再開発などに代表されるように、変わりゆく時代にふさわしい形へと生まれ変わるため、習志野市は着実に歩みを進めています。

この写真集には、市内各所の航空写真のほか、今日までの習志野市の出来事や、学校紹介などが掲載されています。

あらゆる世代の皆様にとって、本市の歩みを振り返るとともに、私たち自身が紡ぎ出した私たちのまちの魅力や豊かさを改めて実感していただき「未来の習志野」へ思いを馳せるきっかけとなることを祈っております。

これまでもこれからも、まちづくりの主役は市民の皆様です。

将来へ向けて豊かさを育み、さらに充実した平和な暮らしの確立を目指し、本市の特徴である「親密度」と「結束力」を活かして、すべての皆様の力を集結し、未来へ習志野市を紡いでいきましょう。

結びに、この写真集の制作にご協力いただきました関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。

習志野市の四季



春（袖ヶ浦西近隣公園）



夏（茜浜緑地）

習志野市の輝かしい未来へ向けて



習志野市議会議長 佐々木秀一

習志野市が市制施行 70 周年を迎えましたことに市議会を代表し、心よりお祝い申し上げます。

本市の 70 年という歴史を辿れば、昭和 29 年 8 月 1 日に「習志野市」が誕生して以来、歴代市長のご尽力はもとより、市民の皆様から多岐に渡り多大なるご協力を賜り、文教住宅都市としての伝統を引き継ぎつつ、先進的な取り組みへも果敢に挑戦し、昭和、平成、令和と時代を重ね、大きく発展してまいりました。

この度、70 周年という大きな節目を迎え、市議会といたしましても、市行政と一体となって習志野市の輝かしい未来へ向け、市民の皆様が心豊かに充実した毎日をおくり、末永く住み続けたいと感じる街づくりに全力で取り組んでまいりたいと新たな決意を持って臨んでおります。

本日ここに、市制施行 70 周年を皆様とお祝いできますことに深く感謝するとともに、本市のさらなる発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

一人一人が輝く 習志野の教育

～ 70 周年の歴史の継承と未来へのさらなる発展へ～



習志野市教育委員会教育長 小 熊 隆

この度、市制施行 70 周年を記念して航空写真集が作成されました。創意工夫された航空写真のデザインからは、各学校の伝統や本市への愛着、そして未来への希望などが伝わってきます。

本市の教育を振り返ってみますと、「教育に力を入れるまち」「小さなまちの大きな教育」を目指し、昭和 32 年に市立習志野高校の開設、昭和 45 年に文教住宅都市憲章の制定を行いました。さらに、教師の指導力の向上を目的に、多くの市立小・中学校で公開研究会を開催し、先輩の先生方が努力を続けてこられた 70 年間でもあります。歴史の重みを感じるとともに、今に満足することなく、未来に向け習志野の教育を発展させていく必要があります。

今年度、教育委員会では、「^{かなで}演奏よう未来へ 一人一人が輝く 習志野の教育」をテーマに取り組んでおります。今後も地域及び保護者の皆様の御協力をいただきながら、児童生徒、教職員とともに「一人一人が輝く」教育活動を目指してまいります。

結びに、写真集の制作にあたり、御尽力いただきました児童生徒、教職員の皆様及び関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。



秋（東習志野ふれあい広場）



冬（藤崎古道）

市のあゆみ ～昭和から令和へ～

昭和

昭和 29 (1954) 年 8 月 1 日 習志野市が発足①



昭和 32 (1957) 年 市立習志野高等学校創立

昭和 39 (1964) 年 習志野市役所庁舎完成②



昭和 41 (1966) 年 第一次埋立地「袖ヶ浦」を市域に編入

昭和 43 (1968) 年 「習志野ナンバー」開始
(千葉陸運事務所習志野支所開設)

昭和 45 (1970) 年 文教住宅都市憲章制定 市の木「アカシア」、市の花「アジサイ」に決定



昭和 48 (1973) 年 「鹿野山少年自然の家」「富士吉田青年の家」開設

昭和 52 (1977) 年 第二次埋立地「香澄・芝園・秋津・茜浜」を市域に編入



昭和 53 (1978) 年 習志野文化ホール開館③

昭和 57 (1982) 年 核兵器廃絶平和都市宣言

昭和 61 (1986) 年 アメリカ・タスカルーサ市と姉妹都市提携調印④



昭和 63 (1988) 年 谷津バラ園オープン⑤

平成

平成 5 (1993) 年 谷津干潟がラムサール条約登録湿地に認定⑥

平成 6 (1994) 年 谷津干潟自然観察センター開設
第 1 回市民まつり「習志野きらっと」開催

平成 10 (1998) 年 オーストラリア・ブリスベン市と湿地提携調印

平成 14 (2002) 年 芝園清掃工場本稼働開始

平成 16 (2004) 年 市制施行 50 周年 旧庁舎前にタイムカプセルを埋蔵

平成 18 (2006) 年 県内初の幼保一体化施設東習志野こども園開園

平成 25 (2013) 年 谷津の一部が「奏の杜」に住居表示変更

平成 26 (2014) 年 市制施行 60 周年
ご当地キャラ「ナラシド♪」が飛来⑦

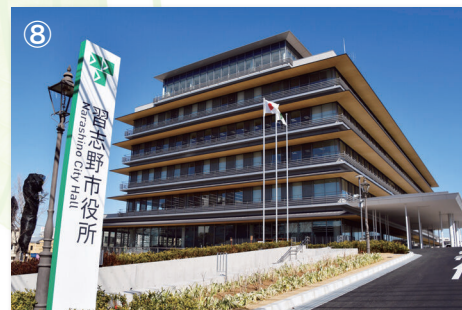
平成 29 (2017) 年 習志野市役所が新庁舎に移転⑧

令和元 (2019) 年 生涯学習複合施設プラッツ習志野オープン

令和 2 (2020) 年 習志野市内に隕石が落下「習志野隕石」と命名⑨

令和 5 (2023) 年 習志野ソーセージがちば文化資産に選定⑩

令和 6 (2024) 年 **市制施行 70 周年**



ブランドメッセージ

子どもから大人まで音楽に親しみ、自然と暮らしが調和するまち習志野。明日に向かって新しい魅力がどんどん生まれているこのまちをもっと多くの人に知ってもらい、「習志野っていいね!」と思ってもらえるように、平成 30 年にブランドメッセージ「あしたのハーモニーが響くまち」を作成しました。